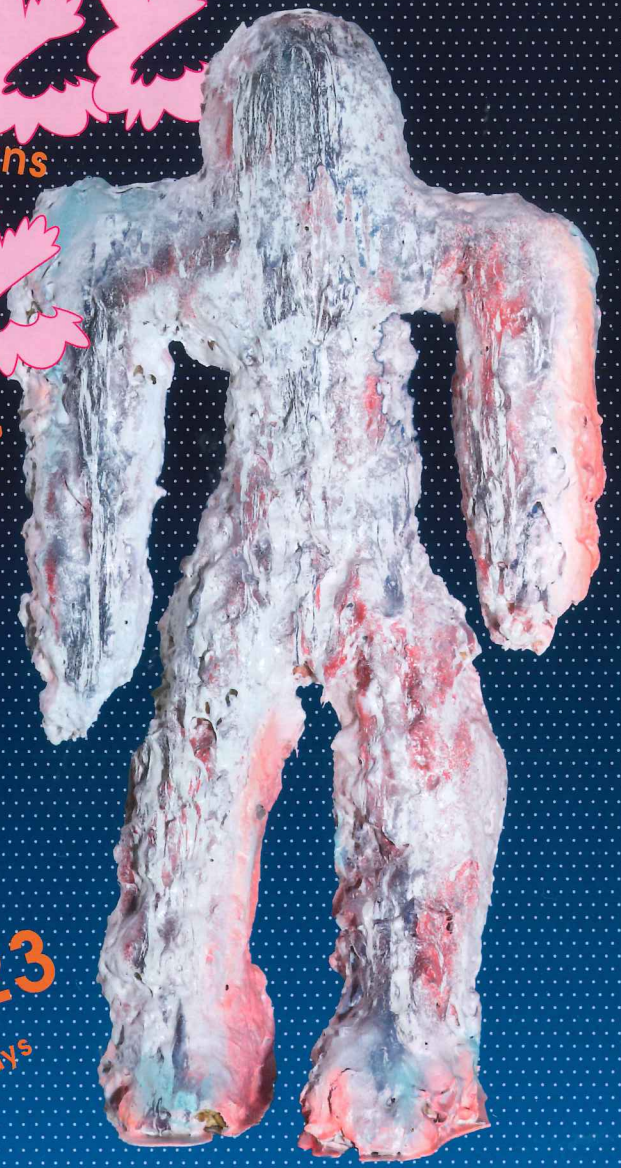
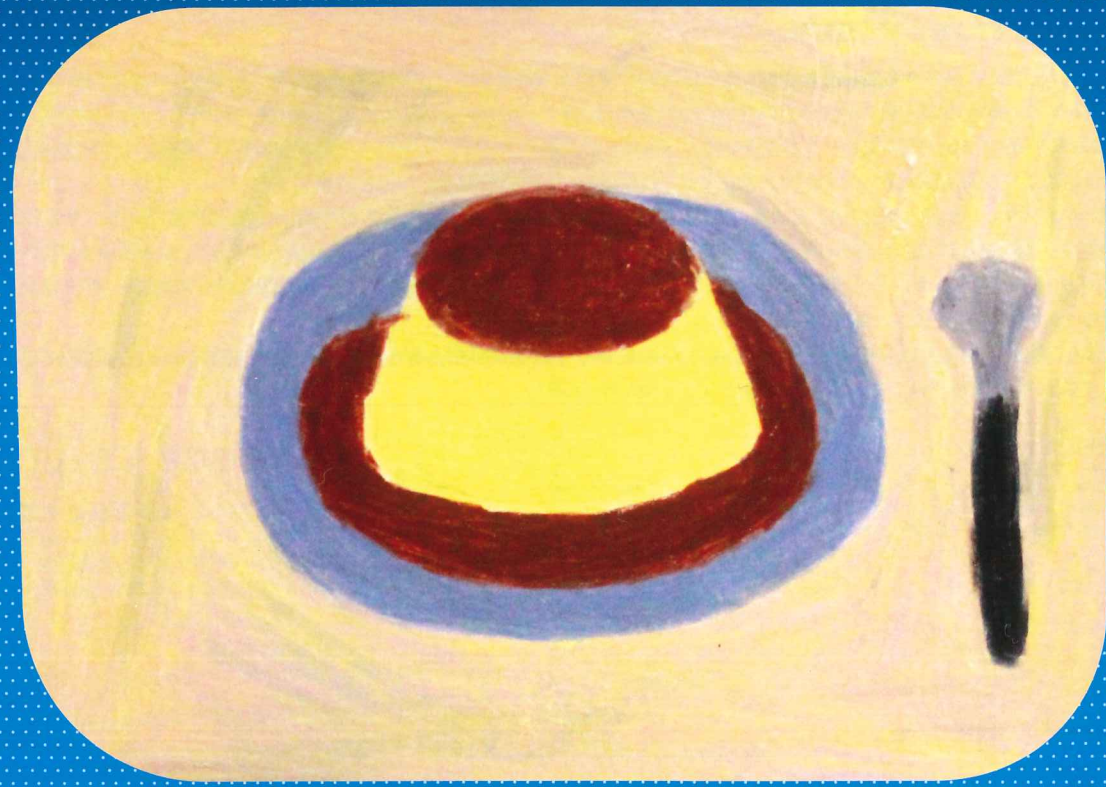




Asking what it means
 to be human,
 and short colored
 pencils.



Exhibition  **April 11 - June 25, 2023**
 10:00-18:00
 Closed on Mondays



KIMURA
 Shun



YOSHIDA
 Hiroshi

art space co-jin

Asking what it means to be human,
and short colored pencils.

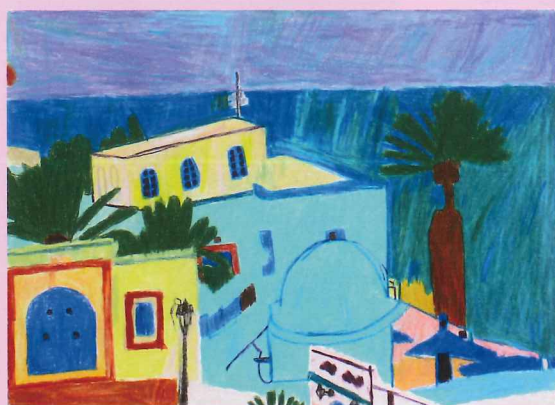
なまはらび おこしがい しなまらる

Tue

Sun

2023.4.11-6.25
10:00-18:00 月休

出展作家：木村舜 吉田裕志



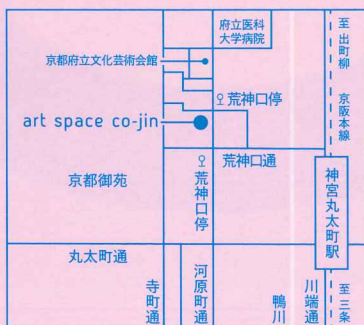
吉田裕志（よしだ・ひろし）1973年生まれ。2008年、京都市ふしみ学園に「アトリエやっほー!!」が誕生した時から在籍。当初は陶芸を中心に、細部まで作り込まれた電車などを制作。2014年頃から本格的に始めた作画では、オイルパステルでの動物画が多く描かれた。どの作品も大胆な構図とタッチで動物の表情が愛らしく描かれている。最近では画材が色鉛筆に変わり、題材は「家族旅行の風景」「お祭り」「懐かしい60年代の名画」など多岐にわたるようになる。それらの作品に登場する人物はコミカルでユーモラスに描かれ、塗り重ねることで色面に強度が増した画面の緊張を緩和する。

「何ぞや人とは?と問う事と、短い色鉛筆」

ひととは何か?という自身から生じ続ける疑問を、多角的な考察から解き明かそうとし、作品として具現化することを試みる木村舜。「呼び掛け」「歩行の先」「待ち受けるもの」「sorry」「ある日、体から出てきたもの」「ナンバー」「魚への拘束」「隠すということ」「限ある永遠」「同じこと」「はみ出し」「エサを与えないでください」「黒いの」「テーピング」「もどき」「侵食」「決定事項」「Smile」。これらはスケッチに記録されたタイトルの一部。もうこれだけで、木村の触れている世界に誘引される。「みじかいいろべんしる」は吉田裕志。ひと目できりこになってしまうような鮮やかな色面が印象的な絵画作品である。それらは短い色鉛筆で強く塗られて生み出されてきた。彼は短くなっていても使ってくれる。長いものは削りすぎることもあるので、すでに短いのを周囲からもらい受ける。そのほうが制作環境にも都合がいい。描くゆびさきは、ギター弾きが三味線のバチではなく小さなピックを使うのに、にている。

今回、ARTISTS' FAIR KYOTOとart space co-jinのおとなの事情で引き合うことになった木村舜と吉田裕志のふたり。絵画・立体作品や取材資料とあわせた展示をどうぞ楽しみください。

表上：木村舜／「ひとの様な形態」(2016) 発泡ウレタン、ポリエステル樹脂、蓄光スプレー、ペンキ
表下：吉田裕志／「プリン」(2020) 128×182mm 色鉛筆、紙
裏左：吉田裕志／「チュニジア」(2020) 242×333mm 色鉛筆、紙
裏右：木村舜／「存在」展示風景／2018撮影：前谷開



art space co-jin

きょうと障害者文化芸術推進機構

〒602-0853 京都市上京区河原町通
荒神口上ル宮垣町83 レ・フレール1階

Tel & Fax: 050-1110-7655

Mail: info@co-jin.jp

URL: https://co-jin.jp/

@artspacecojin

www.facebook.com/artspacecojin/

Instagram@artspacecojin

主催：art space co-jin（きょうと障害者文化芸術推進機構）

協力：アルテック、京都市ふしみ学園 アトリエやっほー!!、ARTISTS' FAIR KYOTO 実行委員会

入場無料

会場：art space co-jin

月曜休廊

イベント絶賛企画中。
内容が定まり次第、ウェブサイト、SNSにて告知いたします。

ご来場の際は、基本的な感染対策にご協力をお願いします。